

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

生命科学部の2019年度中期目標・年度目標達成状況に関しては、教員・教員組織に関して設定した1つの評価項目の達成が不十分であるものの、内部質保証、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、教員・教員組織、学生支援、社会貢献・社会連携における評価項目はほぼ達成され、総じて適切な運営がなされている。残りの年度へ向けての継続的な努力が期待される。

2019年度の自己点検・評価活動について、教育課程・教育内容に関しては教養科目と専門科目の連携性の強化と国際性を涵養するための英語を用いる科目の設置、また、教育方法に関しては授業参観を中心とするFD活動の推進が評価できる。

新型コロナウイルス感染症対応を受け、2020年度に新たな教授方法を検討し、オンデマンド授業及びオンライン授業の拡充を図るとしたことは、今後の大学教育の在り方を見据えるものであり、その取り組みが期待される。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

「総じて適切な運営がなされている」と評価された質保証、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、学生支援に関しては本年度も継続する。特に新型コロナウイルス感染症に対応するため、教育課程・学習成果においては引き続きオンデマンドやオンライン講義の拡充を図っていくとともに、ハイフレックス講義や実験・実習における対面授業など、新たな教育方法について試行しながら推進していく。達成が不十分であった教員・教員組織に関しては、2020年度には実施できなかった帰国報告会をオンラインで開催して、在外研修制度への理解と成果について共有し、在外研修制度の積極的な活用および柔軟な運用を検討していきたい。2020年度には広報活動に関するアンケートが実施できなかったが、今年度は1, 2年次の学生に対してオンラインでアンケートを実施し、2019年度にリニューアルした学部HPの効果や改善点について検証していく予定である。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

生命科学部は、従来より大学評価委員会から、質保証、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、学生支援について適切な運営が成されているという評価を受けてきたが、その実践を継続するとともに、新型コロナウイルス感染症に対応するため、教育課程・学習成果においては引き続きオンデマンドやオンライン講義の拡充を図り、新たな教育方法を推進するなかでも全教員の講義調査を行って結果を講義の改善に活かしてきている。こうしたFD活動の推進を高く評価したい。

また各学科に学生問題を担当する教員を置き、実験科目を中心として課題の提出状況をモニターし成績不振学生への対応にあたるなどの学生対応に関する具体的な改善も見られる点が評価できる。一方で、新入生に向けてのラーニングサポーター制度の活用だけでなく、研究へと導くなどZoomを利用した多方面への活用も検討する余地があると思われる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

学生が問題意識をもち、自ら学ぶ自立性を涵養するために、1年次から実験・演習科目を導入している。学びの意欲を上げるために、各学科とも優秀な卒論や資格の合格に対し、表彰を行っている。生命機能学科では、「生物化学」「分子生物学」「細胞生物学」「生物物理学」分野の講義を担当する専任教員が、講義内容を綿密に協議・検討して分担し、体系的なカリキュラムを設定している。研究に対して高い意欲をもつ学生に対しては、2年次から「ゲノム」「蛋白質」「細胞」のいずれかの分野の研究室に

所属し、講義と並行して研究を行うことも可能にしている。希望すれば4年次まで同じ研究室で研究を継続することができる。環境応用化学科では、公的資格試験(採用試験)合格者等を生命科学部奨励賞として毎年度表彰している。「基礎応用化学実験」、「応用化学実験 IAB, IIAB」、「卒業研究」および演習科目を各学年に設置し、自ら学ぶ能力の育成に力を入

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

れている。応用植物科学科では、樹木医補、自然再生士補、技術士補などの各種資格の取得に向けた科目を開講するとともに、公務員受験対策コースの設定やインターンシップを必修科目とするなど、社会が求める人材の育成に努めている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・生命科学部履修の手引き
- ・生命機能学科教室会議議事録
- ・生命科学部賞募集要項

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

「カリキュラム・ポリシー」に基づき、各学科では3つの履修コースを設定し、カリキュラムマップで順次性を含め体系的な教育課程を明示している。

生命機能学科：ゲノム機能コース，蛋白質機能コース，細胞機能コース

環境応用化学科：物質創製化学コース，グリーンケミストリコース，環境化学工学コース

応用植物科学科：植物クリニカルコース，グリーンテクノロジーコース，グリーンマネジメントコース

1, 2年次において各コースに進むための基盤となる重要な講義科目・実習科目を必修とし，3, 4年次における発展的な専門科目は学生の興味に応じて選択としている。専門教育の接続科目として，物理学基礎，化学基礎，生物学基礎，微分積分学及び演習・線形代数学及び演習，科学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなどの理系教養科目が適切に配置されている。科学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは選択科目であるものの専門科目への導入の役目を果たす重要な教養科目であり，環境応用化学科では必修に近い扱いとしており，生命機能学科においても2年生から研究室配属を希望する学生には修得を義務づけることにより，8割以上が履修するシステムを作った。応用植物科学科では，全学生に対し，植物病の診断・治療・予防の先端技術習得に必要な基礎生命科学に関連する科目の履修を推奨している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学部ホームページ <http://www.hosei.ac.jp/seimei/>
- ・生命機能学科ホームページ <http://fb.ws.hosei.ac.jp/wp/>
- ・環境応用化学科ホームページ <http://chem.ws.hosei.ac.jp/wp/>
- ・応用植物科学科 <http://depcps.ws.hosei.ac.jp/wp/>
- ・生命科学部履修の手引き

③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

S A B

※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

2012年度に小金井リベラルアーツセンターが設置されて以降，生命科学部と理工学部の教養教育科目の実施に際して調整等を行っている。各学科とも初年次科目を指定し，幅広い教養が身につくよう配慮している。また，卒業研究を通して自立性やプレゼンテーション能力を涵養できるようにしている。特に，2017年度に数学担当，2018年度に物理学担当の教養の専任教員が生命科学部所属として純増で着任し，化学担当の教養教員は，2018年度以前に任期付きであったものが2019年4月から専任となった。また，2018年度には，教養教育と専門教育の連携を強めるために教養・専門教育連携委員会を発足した。このことにより，生命科学部にふさわしい教養教育をコーディネートする体制が整いつつあり，教養科目の授業担当者と対象学科との緊密な連絡も行われている。生命機能学科では，早い時期から研究室に所属できるというカリキュラム上の特色を生かし，研究を通して総合的な判断力を育成している。同時に，研究室におけるコミュニケーションを通して社会性を身につける機会を与えている。環境応用化学科では，1年次春学期の必修科目「応用化学基礎」において，学科の専門科目を踏まえた教養科目の履修指導を行うとともに，教員との対話，学生間のディスカッションの場を提供し，総合的な判断力や豊かな人間性を養うことに努めている。さらにラーニングサポーター制度により上級生と交流する機会を設けることで，学習意欲の向上のみならず人間形成にも役立てている。応用植物科学科では，実験・実習科目（1, 2, 3年次必修）において，学生参加，問題解決，対話型の授業を，インターンシップ（2年次必修）では対話型，学生参加型（インターンシップ体験発表）の授業を実施しており，総合的な判断力や豊かな人間性の涵養に努めている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部教授会議事録 ・法政大学生命科学部設置の趣旨等を記載した書類 ・各学科教室会議（教員会議）議事録 ・基盤教育タスクフォース委員会最終報告 		
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育として、入学時にプレースメントテストおよび TOEIC-IP テストを実施し、クラス分けを行っている。推薦入試制度を通して入学した学生に対しては、入学前教育として e-ラーニングの履修を課している。2017 年度以降は学務と学科主任からそれぞれ独立に、e-ラーニング受講を徹底して呼び掛けている。さらに、付属校入学予定者向けガイダンスで、各学科主任より春休み期間に行う課題を課している。また、高校で「物理学基礎」「化学基礎」「生物学基礎」を履修しなかった学生を対象に、これらの科目に対応する理系教養科目を開講し、大学に必要な理科の知識の修得を図っている。さらに、付属校に特化した取り組みとして、適切な高大接続を行えるように、説明会や模擬授業等のイベントを行っている。生命機能学科では、1 年次のガイダンス時に、必修実験演習科目のテキストとして「生命機能学実験の手引き」を配布している。このテキストには、実験の技術的な内容だけでなく、生命科学と英語の学習法、作文技術などについても掲載し、その内容についての講義も行っている。環境応用化学科では、1 年次の必修科目「応用化学基礎」「応用化学入門」を通して導入教育を行っている。応用植物科学科では、初年次にレポートの作り方や資料の収集方法など、基本的な学習法を教育している。</p>		
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>		
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部履修の手引き ・各学科教室会議（教員会議）議事録 ・生命機能学科生命機能学実験の手引き ・生命機能学科基礎実験 I/II・基礎演習 I/II シラバスと予定表 ・環境応用化学科応用化学基礎、応用化学入門シラバス ・応用植物科学科アンケート 		
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>定期的に TOEIC-IP テストを実施して、そのスコアを教室会議で評価・議論している。また、2014 年度より ERP 科目を卒業単位として認定（12 単位を上限）した。ERP についてガイダンス等で周知を図り参加を強く推奨している。さらに SGU 採択に伴い、2017 年度より各学科の専任教員が参画するグローバルオープン科目（英語で自然科学を教授する）を設定し、開講している。また、英語による専門科目の設置についても検討している。特筆すべき実践として、生命機能学科では、1 年次（秋学期）～2 年次（春学期）には基礎科学英語を、3 年次（秋学期）～4 年次には科学英語を必修科目として少人数クラスで実施している。基礎英語については TOEIC-IP テストの成績に基づいたクラス分けをすることにより、学生の能力に応じたきめ細やかな教育を行っている。また、来日した海外の研究者によるセミナーを開催し、学部全体に公開している。環境応用化学科では、全教員が英語を取り入れた講義に取り組んでおり、教材・小テストを英語化するなど、国際性を養うための教育に取り組んでいる。また、新年度の学生向けガイダンスにおいて、海外留学・国際交流ガイダンス、ERP への積極的な参加を推奨している。応用植物科学科では、各学年のガイダンス等で ERP などの英語教育を積極的に推奨し、受講を促している。</p>		
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>		
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部履修の手引き ・生命科学部 ERP、アンケート調査 ・生命機能学科国内外研究者によるセミナー件数 ・環境応用化学科ガイダンス資料 		
⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A B

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

学生に対して効果的な理系キャリア教育を実施するために、執行部、各学科就職担当教員がキャリアセンターと連携する体制を確立している。学部の理念に掲げる「統合的視野を持った実践的研究・技術者の育成」を実現するために、キャリアパスの第1段階として大学院進学を重視し、2016年度よりキャリアセンター主催で開催されている「理系進学ガイダンス」において、生命科学部は講演内容を吟味し、学部生へ参加を呼びかけるなど実施に協力している。生命機能学科では、3年生を対象に「進学説明会」と「就活説明会」を開催している。進路選択の判断材料を与えるため、研究者・技術者として活躍している大学院修了生に自身の体験を話してもらっている。環境応用化学科では、1年次の必修科目「応用化学基礎」において、専門家によるキャリア教育を2回実施し、社会的・職業的自立を志向した学ぶ意欲の育成を行っている。応用植物科学科では、キャリア教育の一環として、技術士試験対策、樹木医補、自然再生士補の資格取得に向けた科目を初年次から受講するように指導している他、「植物医科ビジネス論」(2年生)、「植物医科学法論」、「知的財産総論」(3年生)などの実践的科目を配置している。また、2年次の秋学期にはキャリアアップ・ガイダンスを行い、専門家による講演や先輩の就活体験談を通じて進路選択の動機付けを行っている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命科学部履修の手引き
- ・各学科教室会議（教員会議）議事録
- ・生命機能学科生命機能学実験の手引き
- ・生命機能学科基礎実験 I/II・基礎演習 I/II シラバスと予定表
- ・環境応用化学科応用化学基礎シラバス
- ・応用植物科学科植物医科学応用実験 II 予定表（ガイダンス案内）

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制及び方法】※箇条書きで記入。

- ・各学科の入学時、学年別および留級生ガイダンス等において、理系教養科目の履修法など、幅広い科学の素養を身につけるためのポイントを丁寧に指導している。
- ・生命機能学科では、理系教養科目（化学、物理学、数学等）の積極的な履修を、教務担当教員が中心となって指導している。また、専門科目についてもカリキュラム・ポリシーに基づいた3つの履修コースの履修モデルを提示している。また2017年度からの試みとしてFB（生命機能学科）セミナーを2020年度においてもマイクロナノテクセンターとの共催として開催し、研究講演と懇談会を実施して最先端の研究に触れることで学習意欲を活性化させることを目指した。
- ・環境応用化学科では、1年次春学期の「応用化学基礎」において、履修登録予定表を担当教員が確認し、履修に関するきめ細やかな指導をしている。特に、理系教養科目（化学、物理学、数学）の履修を強く推奨している。さらに、留級生を対象とするガイダンスをおこない、親身な履修指導を実施している。
- ・応用植物科学科では、各学年に対して2名ずつの教員を「学年担当」として配置するとともに、ラーニングサポーター制度を活用することによってよりきめ細かい履修指導を実施している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各学科ガイダンス資料
- ・生命科学部履修の手引き
- ・FB（生命機能学科）セミナー案内
- ・環境応用科学科履修登録予定表
- ・環境応用化学科応用化学基礎シラバス
- ・応用植物科学科役割分担表

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

生命科学部では、全専任教員がオフィスアワーを設定して学生の個別指導に当たるとともに、各学科に学生問題を担当する教員を置き、成績不振学生等の調査・対応を主導している。生命機能学科では、1～3年生の各学年の担任教員および基礎実験演習担当教員を設定し、基礎実験、演習科目等の実践的教育を行う際の、学生の学習上の問題に対応している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

卒業研究については、学生の研究の進捗に合わせて成果発表を口頭またはポスターから選択できるようにし、論理的な説明法の習得と、多くのディスカッションを通じた論理的思考能力の育成を行っている。2020年度は、研究室におけるディスカッションに加えてオンラインでの研究指導も行うことにより、より円滑な指導体制を確立した。環境応用化学科では、教員は「応用化学基礎」の時間やオフィスアワーを用いて、きめ細かな学習指導を行っている。成績不振者については毎週実施される教室会議の中で情報を共有し、学科主任及び授業担当教員がケアするようにしている。教務助手が分担して主要講義・実験・演習科目に出席することで、その講義内容を把握し、学生からの質問等に対応できる体制を整えている。さらに TA がこれらをサポートする体制をとっている。応用植物科学科では、オフィスアワーを用いた個別指導のほか、成績不振者については教員会議で情報を共有するとともに、学生問題担当教員が優先的にケアしている。また、各学年の実験実習科目の指導は学年担当の教務助手が実験技術指導を担当するほか、全学年を通じて教育技術嘱託が植物栽培管理指導を行う体制をとっている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

各学科に学生問題を担当する教員を置くとともに、実験科目を中心として課題の提出状況などをモニターすることによって、成績不振学生等の個別対応を数多く行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命科学部履修の手引き
- ・生命機能学科各種委員リスト、ガイダンス資料、卒業論文発表会プログラム
- ・生命機能学科教室会議（教員会議）議事録
- ・環境応用化学科基礎応用化学実験、応用化学実験 IAB, IIAB テキスト
- ・応用植物科学科教員会議議事録

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

生命機能学科では、1, 2年次の基礎実験・演習・科学英語の科目において、統一テストを行い、各自の達成度を学生に認知させ、予習・復習の指標を提示している。2020年度は新たにオンデマンド教材を作成し、事前学習と課題等により学習時間を確保した。環境応用化学科では、専門科目において毎回課題を課す、講義開始前に前回の講義の内容の小テストを随時行うなど予習、復習をおこなわせる工夫をしている。また、各科目で学習支援システムを活用し、授業に関連した資料を授業の前後で学生に配布するなど授業の予習・復習がおこなえる様、十分に配慮している。応用植物科学科では、翌週の学生実習での実習内容を説明し、当日までに予習を行わせる工夫をしている。また、教員や学科内で保有する専門図書を閲覧可能として、予習・復習に適した学習環境を整えている。その他、多くの専門科目において学習支援システムで予習復習に役立つ資料を提供し、個別に学習できる環境を整えている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命機能学科 生命機能学実験の手引き
- ・生命機能学科 基礎実験 I/II・基礎演習 I/II のアチーブメントテスト（統一テスト）
- ・生命機能学科 基礎英語 I/II のアチーブメントテスト（統一テスト）
- ・環境応用化学科 有機化学 I・II シラバス
- ・応用植物科学科 植物医科学基礎実験 I・II, 植物生産基礎実習 I・II, 植物医科学応用実験 I・II, 植物医科学専門実験 I・II, 各専門科目のシラバス

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。

S A B

【具体的な科目名及び授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・生命機能学科では、2年次から配属された学生には「生命機能学研究論文」の履修と口頭による卒業研究の成果発表を、3年次から配属された学生にはポスターによる成果発表を推奨している。これにより、卒業研究全体のレベルを落とすことなく、学生の意欲に応じた高い専門教育が行えるようになった。また、ポスター発表形式を導入した事により、他学科の教員を含めた多くの聴講者を集めることになり、広い学問的視野の育成に効果が期待できるようになった。なお、2020年度は、学科の全学生が参加できるオンライン発表会を Zoom を用いて開催した。オンラインの利点が活かされた効果的な成果発表会となった。
- ・環境応用化学科では、講義科目と実験科目の関連性を検証している。予習や復習がいつでもおこなえるオンデマンド型の講義体制を取り入れることを目指して、学習支援システムを活用している。実験科目、講義科目ともに動画ファイルの利用を本格的に開始した。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

実験科目については2017年度に「学生実験体制」に関する検討会を開催して決定した方針に従い、実験科目の教育体制を刷新した。春学期終了時及び秋学期終了時に検討会を開催し、2018年度より導入した「機器解説・演習」及び「発表スライド作成」の教育効果などについて議論し、改善に役立つ取り組みを継続した。

- ・応用植物科学科では、1年生の学生実習において課題に関するプレゼンテーション資料の作成、発表、2年生では必修科目として全学生にインターンシップを実施、3年生では自ら研究計画を立て自主的に病害虫の診断を行う問題解決型の実習を実施するなど、学生参加型・対話型の教育を数多く取り入れている。また、学科内に開設している植物医科学センターの実践的な活動（植物病害虫診断事業）を4年次の卒業論文研究に生かすことで、問題解決能力に加えて、主体的思考能力や社会的適応性を育成する試みを行っている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命科学部履修の手引き
- ・生命機能学科ガイダンス資料、卒業論文発表会プログラム
- ・生命機能学科基礎実験 I/II・基礎演習 I/II シラバスと予定表
- ・環境応用科学科学習支援システム利用の試み
- ・環境応用化学科教室会議議事録
- ・環境応用化学科学生実験体制についての検討会議事録
- ・応用植物科学科各学年ガイダンス資料、卒業論文発表会講演要旨、植物生産基礎実習 I・II、植物医科学専門実験 I、植物医科学インターンシップのシラバス

⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。

S A B

※どのような配慮が行われているかを記入。

生命機能学科では、基礎科学英語において能力別に18名程度以下の少人数クラスを編成している。また、基礎実験では10名以下の班に分けて実験を行わせている。研究室への配属にあたっては、各研究室に最大でも10名以下になるよう配慮し、各学生に個別の研究テーマを与えて指導をしている。なお、2020年度はオンライン・オンデマンドの教材を作成し、学習支援システムを介した個々の学生からのフィードバックを可能とするシステム構築を行なった。オンライン上でブレイクアウトルームを設置するなど少人数で議論できる仕組みを導入した。

環境応用化学科では、1年次の「応用化学基礎」および3年次の「応用化学セミナー」において、教員によるきめ細かな指導をおこなうため、1教員当たり10名以下の学生数で授業を実施している。また、実験科目においては、学生が自律的に学ぶ教育内容および安全性を担保するため、1テーマ1回当たりの学生数を10名以下に絞っている。

応用植物科学科では、1, 2, 3年生の実験・実習科目においては実験台当たりの学生数を最大7名以下（2020年度は特例的にその約半数以下）に調整し、教務助手、TAによる指導が行き届くようにしている。また、研究室配属においては、各研究室への配属人数がほぼ均等になるように調整し、指導時間や研究スペースを十分に確保できるよう配慮している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命機能学科教室会議議事録
- ・環境応用化学科基礎応用化学実験、応用化学実験 IAB, IIAB テキスト、応用化学基礎・応用化学セミナーシラバス
- ・植物医科学基礎実験 I・II、植物医科学応用実験 I・II、植物医科学専門実験 I・II のテキスト

⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。

※取り組みの概要を記入。

生命科学部では、新型コロナウイルス感染症に対応するため、すべての講義をオンデマンドやオンライン講義によって実施した。実験実習科目については、感染状況や感染防止対策に配慮しながら、一部を対面で行った。

生命機能学科では、1, 2年次の基礎実験・演習をオンライン・オンデマンドで行った。技術的に重要なステップは、予め操作方法を動画に収め、擬似的ではあるが操作方法が習得できるように工夫した。卒論研究は、各研究室が入室制限を設けるなど徹底した感染対策を講じる一方で、発表会は全学年がオンラインで参加し活発な討論ができるように整備した。また、優れた研究成果をだし、卓越した発表を行った学生に対しては、コロナ禍にあっても例年と同様に優秀発表賞を授与するなどモチベーションの向上に努めた。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>環境応用化学科では、研究室活動のガイドラインを作成し、研究室および実験科目の人数の制限を決めた。東館4階共通実験室は入口に名簿を設置し、入退出時記録をとっている。また、各研究室では、実験機の間にビニールシートを設置するとともに、入退出時の記録をとった。学生実験の運営のため、全教員参加の学生実験検討会を開催し、感染防止対策をとりながら対面式で学生実験を行うための施策を検討した。学生を少人数グループに分け、実験を行う教室を複数用意、さらにオンライン授業を併用することで「三密」を避けた。</p> <p>応用植物科学科では、一部専門科目の講義にオンラインの利点を活かしたリアルタイムクイズや関連動画視聴などを取り入れ、聴講を楽しめる工夫を凝らすとともに、学習支援システムのテスト/アンケート機能による試験を行い、成績評価に用いた。また学生実験においては学習支援システムを通じて動画や画像を多数提供し、極力実際の実験をイメージしながら課題に取り組めるよう努めた。卒業研究発表会は Zoom によるオンライン形式で実施し、優れた発表に対しては優秀発表賞を授与した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目シラバス 	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の方法および基準は、期末試験や小テスト、レポートなどの各要素の配分も含めてシラバスに明記され、学生へ周知されている。これらをもとに、授業の内容に応じて適切な単位認定が行われている。 ・成績評価結果については、学生からの異議申し立てが可能であり、そのシステムも確立されている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部履修の手引き ・授業科目シラバス 	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>講義科目については概ね各教員に任せられているが、成績評価方針を学生の個人情報の問題を含めて検討している。生命機能学科では、全教員が担当する研究・実験・演習・科学英語科目については、予め学生に公表した基準に沿って学習態度や達成度等を点数化し、教室会議できめ細かく検討した上で成績評価を行っている。環境応用化学科では、1年次の導入教育科目および1～3年次の実験科目において厳格な採点基準を設けて採点をおこない、最終的に成績評定会議で詳細に検討し成績評価をおこなっている。また、各教員がおこなう授業報告においても、各科目の採点基準の確認をおこなっている。応用植物科学科では、特に実験・実習科目、植物医科学インターンシップの成績評価について全教員が参加する教員会議で協議・確認し、適正に評価している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目シラバス ・各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録 	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部ではすべての学科の就職状況を集約し、全体像を学部パンフレットに記載している。 ・生命機能学科では、就職担当教員が学生の卒業後の進路について適宜調査し、教室会議における報告を通して、進学状況および就職状況は、全専任教員に共有されている。 ・環境応用化学科では、学生の卒業後の進路についてゼミ単位で、就職担当教員が適宜調査し、教室会議で報告しており、就職状況および進学状況は全専任教員が把握している。 ・応用植物科学科では、3年生は夏休み前に研究室に配属され、担当教員はゼミ学生の就職内定や進学情報をリアルタイムで把握している。この情報は進路担当教員に報告し、集約された進路情報は迅速に学科全教員に伝達するシステムをとっている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部パンフレット 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 各学科教室会議（教員会議）議事録 各学科進路調査 	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部では各学科から進級状況の報告を受け、教授会で承認している。 生命機能学科では、実験・演習・科学英語の成績について、全教員が参加する教室会議において、成績分布に配慮しつつ協議した上で判定している。また、学期末と年度末には、特に修得単位が少なく進級が危ぶまれる学生や、成績の低下した学生を抽出して個別に指導している。 環境応用化学科では、実験科目の成績分布について検証し、全教員による成績判定をおこなっている。また、教室会議でおこなわれている授業報告を通して、各科目の成績分布および学生の理解度について全教員が情報を共有している。さらに年度末の教室会議において、全教員により提供された情報をもとに進級・卒業の判定をおこなっている。 応用植物科学科では、実践的教育の要である実験科目について、全教員による成績判定を行っているほか、樹木医補、自然再生士補の認定養成機関であることから、資格取得に必要な科目の履修状況を常時把握・指導している。進級や卒業については、提供される情報を基に、教室会議で検討し個別指導している。 	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部教授会議事録 各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録 	
②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>生命機能学科では、研究室配属授業の成績評価、発表会の成績を全教員が採点・集計している。環境応用化学科では、3年次の「応用化学セミナー」および4年次の「卒業研究」において、研究報告やディスカッションを定期的におこなうことで、学習成果の進展をチェックしている。また、卒業研究発表会では、全教員が発表を聴講し、成績判定をおこなっている。応用植物科学科では、卒業研究発表会において、全教員による発表内容・態度の採点をおこない、相互に採点内容を確認することで、学習成果評価を適切に行っている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室会議議事録 	
③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>生命機能学科では、1～2年次の実験・演習・科学英語については統一テストを行い、各学生の達成度を測っている。2～4年次に各研究室で取り組む課題研究では、その集大成となる「卒業論文」について、全専任教員が全ての口頭発表を審査・採点して、判定会議において採点結果をもとに評価を決定している。環境応用化学科では、授業科目の到達目標に関して、学期末定期試験において評価をおこなう。学期末定期試験が実施されない科目に関しては、授業時間内に課題を課し、回答結果を元に毎回評価をおこなうなどの方法により、学生の学習成果の測定をおこなっている。さらに、集中講義科目においては、授業時間内や授業終了後の一定期間にレポートを課すなどして適宜評価をおこなうことにより達成度評価を適切におこなっている。応用植物科学科では、GPAやTOEICの年次比較のほか、実験・実習科目におけるレポート内容の確認・比較を行っている。また毎年、技術士一次試験合格者、樹木医補・自然再生士補の資格取得状況、学生による学会発表などを確認している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録 生命機能学科卒業論文発表要旨集、統一テスト 環境応用化学科卒業論文発表要旨集 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・応用植物科学科卒業論文発表要旨集，技術士第一次試験合格者数，樹木医補，自然再生士補登録者数

④学習成果を可視化していますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。

- ・生命機能学科では、1～2年次に実験・演習・科学英語に関する統一テストを行い、定量性をもつ達成度として可視化している。また、学生による学会発表を推奨し、学会発表数を教育成果の一つとしており、2015年度より制定された理系学部学生国内学会発表補助を積極的に利用している。
- ・環境応用化学科では、実験科目のレポート、演習、実習それぞれの点数や成績分布について、詳細なデータをまとめて成績判定会議で報告し議論している。また、各教員の授業報告においては、各科目の成績分布を報告し、議論をおこなっている。また、卒業研究発表においては、「卒業論文要旨集」をとりまとめている。さらに、公的資格取得者などを表彰する生命科学部奨励賞の取り組みを通じて、資格取得者数の年次変化を確認している。
- ・応用植物科学科では、年度ごとに技術士一次試験合格者数，樹木医補・自然再生士補登録者数を把握して、年次変動を確認している。また毎年度末には、教室会議において、学生の単位取得状況に関するデータを基に、学生指導に関する検討を行い、その方針に則った指導に全教員が取り組んでいる。

【2020年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録

1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。

①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・生命科学部では各学科で兼任講師懇談会を年1回開催し、兼任講師の担当講義科目についても教育成果について検証し、教育内容・方針の改善に資する情報の収集を行っている。2020年度は新型コロナウイルスの影響で兼任講師懇談会をZoom等により実施し、授業等に関する意見を募った。
- ・生命機能学科では、入学時のプレースメントテストとTOEICの成績を、1,2年次の基礎実験・演習・科学英語科目で実施する統一小テストおよび期末テストの結果と比較・分析し、教育効果について議論・検証している。また、3年次の実験・演習・科学英語科目について学生にアンケートを行い、教育内容・方針の改善に資する情報の収集を行っている。
- ・環境応用化学科では、ほぼ毎週開かれる教室会議で教育内容、実施の問題点や教育成果について継続的に検証している。また、卒業研究での取り組みをより充実したものにするために、全年次の進級要件の見直しを行い、2020年度の新入生から適用した。
- ・応用植物科学科では、授業改善アンケート以外に学科独自のアンケート調査を実施し、教員会議で結果を分析している。また、毎月2回程度開催される教員会議の中で、試験の成績や資格取得者数など教育成果に関する情報を共有し検証しているほか、学業不振学生について原因の分析、保護者面談の実施を含めた対策を定期的に議論している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・生命科学部教授会議事録
- ・各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録
- ・生命機能学科アンケート調査
- ・環境応用化学科化学系教員懇談会議事録
- ・環境応用化学科履修の手引き
- ・応用植物科学科アンケート調査

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。

S A B

※利用方法を記入。

- ・授業改善アンケートの自由記述欄の詳細情報開示請求により、学部執行部が学部の全ての教養科目と専門科目について、授業の実施状況を確認している。
- ・生命機能学科では、学科独自の授業アンケートを実施し、集計結果を授業の検証と改善に役立てている。また、全学の授業改善アンケートの結果についても活用するよう各教員に確認している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・環境応用化学科では、春秋学期の全学授業改善アンケートの集計結果を解析し、授業に対する興味、理解度等を知るための手がかりとしている。さらに、毎年4月に独自に1年生に対し、新入生アンケートを実施している。新入生アンケートについては、アンケート項目の見直しなどアンケートの更なる有効利用について議論している。
- ・応用植物科学科では、授業改善アンケートや学生アンケートを分析し、学期の終わりと次の学期の初めの間に授業改善の目安として用いているとともに、教員間で適宜情報交換しながら、学生の意見を取り入れて授業の改善に役立てている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各学科教室会議（教員会議）開催記録・議事録
- ・生命機能学科アンケート調査
- ・環境応用化学科アンケート調査
- ・応用植物科学科アンケート調査

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<p>・教養教育と専門教育の連携を強めるために、2018年度に教養・専門教育連携委員会を発足させ、2019年度には情報科学部・理工学部・生命科学部の3学部の教養担当教員と専門科目担当教員が参加する基盤教育タスクフォース委員会が開催された。2020年度は教養・専門教育連携委員会を開催し、教養教育と専門教育の連携についての問題点の共有や今後の課題について話し合った。今年度も教養・専門教育連携委員会を開催し、生命科学部にふさわしい教養教育の再編成を検討する予定である。</p> <p>・2020年度は新型コロナウイルス感染症に対応するため、すべての講義をオンデマンドやオンライン講義によって実施したが、各教員の授業方法や工夫を調査し、互いに参考にすることによって教育方法の改善に努めた。実験実習科目については、動画等を活用するとともに、感染状況や感染防止対策に配慮しながら一部を対面で実施することにより、理系学部としての教育効果の維持に努めた。</p>	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<p>・新型コロナウイルスの影響により、2021年度もオンデマンドやオンラインでの授業が余儀なくされている。各学科ともオンラインの利点を生かした教育を行っているが、特に実験科目については対面授業に勝るものはなく、教育上の目的を十分に達成できているとは言い難い。2021年度以降は、感染状況に配慮しながらハイフレックス授業や対面授業の機会を増やし、学習効果の改善につなげていく。</p>	

【この基準の大学評価】

生命科学部では、学生の能力育成のため、各学科において1年次から実験・演習科目を導入している。さらに生命機能学科では通常は3年次に研究室配属となるが、2年次春に学生の希望をアンケートして、研究に対して高い意欲を持つ学生に対しては2年次秋からゲノム、蛋白質、細胞のいずれかの分野の研究室に所属し研究を行うことも可能としている。環境応用学科では公的資格試験の合格者を表彰するとともに、実験、演習科目を各学年に設置し、応用植物科学科では、樹木医補などの資格試験に向けた科目の開講や公務員受験対策コースの設定、インターンシップを必修科目とするなど人材の育成に努めている。学生の将来に早くから目を向けさせ専門性に触れさせる制度は、社会で活躍する人材を養成する

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

という点でも高く評価できる。

国際性の涵養の面では、学部として TOEIC-IP テスト、ERP 科目を卒業単位として認定、また専任教員によるグローバルオープン科目の開講が実施されている。また生命機能学科では、1～2 年次に基礎科学英語、3～4 年次に科学英語を必修科目とするなど積極的な取組が見られる点は評価できる。今後英語による専門科目の設置を検討されているが、実現を期待したい。

効果的な授業形態として、生命機能学科では卒業研究のレベルを落とさないため、「生命機能学研究論文」の履修と口頭による「卒業研究の成果発表」、また3年次から配属された学生には「ポスターによる成果発表」を推奨している。またオンライン授業ならではの効果的な取り組みとして2020年度は学科の全学生が参加できるオンライン発表会をZoomを用いて開催した。

学習成果の検証と改善に関して、入学時のプレースメントテスト等の成績をその後のテスト結果と比較・分析し教育効果を検証する点、また実験、演習、科学英語科目について学生アンケートを実施し教育内容等の改善に活かしている点は高く評価できる。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S A B
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学の「FD推進センター」で実施される授業改善アンケートに加え、各学科独自に授業アンケートを実施。 ・2011年度より授業公開を実施。法政大学の全教職員に対して公開しており、教員が相互参観を行うとともに、教務助手・特任教育技術員・教育技術嘱託など技術系職員が参観。 ・2019年度には、任期付教員を含めて学部教員を対象としてFD研修会を実施し、学習支援システム等のICT活用に関する講習を行った。 ・FDアンケート等の結果を各教員にフィードバックし、授業の質の改善に活用するシステムを整備。 ・シラバスチェックシステムを各学科で整備。 <p>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春学期（6月29日～7月18日）と秋学期（11月9日～12月5日）の2回、授業公開を実施した。 ・3月5日の小金井3学部による研究交流セミナーの際にオンライン・ハイフレックス講義の実践事例が紹介され、COVID-19へ対応した情報機器の活用法について話し合われた。 ・シラバスチェック：年度末にかけて、学部で開講されている全専門科目について、生命機能学科では学科主任と教務担当（代理）の2名が、環境応用化学科と応用植物科学科では教員全員がシラバスチェックを実施した。 <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入</p> <p>春学期はCOVID-19の影響で全ての講義をオンライン授業で行ったが、全ての講義の実施状況調査を行い、教材や課題の提供やオンデマンド教材、Zoom等のリアルタイム講義の比率を算出した。また授業公開については、春学期は専任教員のみを対象として実施したが、秋学期は専任・兼任を問わず全教員を対象として行い、COVID-19の影響下ではあったものの教員の資質向上を図るための活動を継続した。</p> <p>小金井キャンパスで教職課程の運営を担う教員が不在となっていた。理工・生命・情報の3学部の協力で、教職課程担当教員（任期付0.5枠）を小金井キャンパスに置くことを決定した。3学部の調整の上、当該教員の配置学科は生命科学部・生命機能学科とした。2020年度に採用人事を行い、推薦・人事委員会を経て教授会での承認後、当該教員の2021年度4月からの任用を決定した。今後の教職課程教育の充実が期待される。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科授業アンケート ・2020年度授業相互参観実施報告書 ・執行部会議、教授会資料 ・各学科教室会議（教員会議）議事録 	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

生命科学部では、研究活動や社会連携・社会貢献に関する現状の活動が継続発展できるよう、ノウハウの共有や伝承を行える枠組みを構築するための取り組みを行っている。その取り組みの一環として、2019年度に着任した教員による新任教員セミナーの開催や法政科学技術フォーラムへの参加を行った。さらに、2018年度に小金井3学部による研究交流セミナーがスタートし、2019年度は春・秋2回の研究交流セミナーを開催した。新型コロナウイルスの影響により、2020年度の研究交流セミナーの開催が危惧されていたが、2020年3月にオンラインにて開催した。

生命機能学科では、FB（生命機能学科）セミナーを2017年度から開催し、研究講演と懇談会を実施して最先端の研究を共有し、研究活動の活性化を図っている。

環境応用化学科では、外部講師を招いて開催してきた「環境応用化学セミナー」を2020年度は4回（第14～17回）開催した。今年度から化学の先端的な内容とともに、他分野の先端的あるいは産業的に重要な事柄に関する講演も取り入れて、研究・教育活動に活かしている。

応用植物科学科では、2年生必修科目のインターンシップによる社会体験、また学科内に開設している植物医科学センターの活動（植物病害虫診断事業）に参加させることで社会との接点を認識させ外部機関との連携の重要性が理解できる枠組みを整備している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入

2020年度は研究に加えてオンライン・ハイブリッド講義の実践事例が紹介され、コロナ禍への対応に必要な情報が盛り込まれた有意義なセミナー発表が行われた。

2020年度の法政科学技術フォーラムも、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインにて実施し、生命科学部からは4名の教員が動画コンテンツを作成して情報発信した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入

- ・研究交流セミナー開催資料
- ・法政科学技術フォーラム開催資料
- ・FB（生命機能学科）セミナー案内
- ・環境応用化学科エコプロ2019 出展資料
- ・応用植物科学科教員会議議事録

③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

生命機能学科では、オンライン講義やオンデマンド教材の導入や作成方法について、学科会議等を通じて情報交換を行い、個々の授業スキルの向上を目指した。また、非常勤講師との懇談会をオンラインで行ない、コロナ禍におけるオンライン授業の工夫や受講する学生への対応について、活発な意見交換を行なった。

環境応用化学科では、教室会議で行っている授業報告の報告内容に、オンライン講義の進め方、オンライン試験による成績評価を加えて、全教員が情報を共有しながら教育効果の向上、正当な評価法に活かした。

応用植物科学科では、FD教員セミナーやハイフレックス教室設備の説明会等に積極的に参加し、より充実したオンライン授業の実施に活用した。また、教員会議において各自が行うオンライン授業の形態や学生の声に関する情報を共有し、教育方法等の改善に努めた。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入

- ・各学科教室会議（教員会議）議事録

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<p>・FD活動について、春学期と秋学期にはほぼ一ヶ月にわたって全教員の全科目を大学の全教職員に対して公開しており、高く評価されている。2019年度にはFD研修会を開催し、学習支援システム等のICT活用に関する講習会を開催した。また、毎回の教授会の際に教育開発・学習支援センター長からFD推進活動について詳細な説明を受けており、教員の資質向上や教育方法の改善に努めている。今後もこれらの取り組みを継続していく予定である。</p>	

(3) 問題点・課題

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・2021年度も法政科学技術フォーラムや研究交流セミナーなどが開催できるかどうか不透明な情勢であるが、対面で開催できない場合はオンラインに切り替えるなどして、FD活動や社会貢献活動を継続的に行っていく予定である。	

【この基準の大学評価】

生命科学部では、春学期、秋学期に、各1カ月の期間の法政大学の全教職員に対して授業公開を行っているが、2020年度の秋学期は兼任講師の講義に関しても公開とした点は、学生への教育効果の向上という意味で評価できる。

また2020年度は、生命科学部はオンラインで実施したすべての講義の実施状況調査を行い、教材や課題の提供やオンデマンド教材、Zoom等のリアルタイム講義の比率を算出している。オンライン授業に取り組むにあたり、実際の講義の実践状況を把握することは、今後の改善点を検証するうえで効果的であり、また教員へのガイドとしても取り組みとして評価できる。

さらに、小金井キャンパスで教職課程の運営を担う教員が不在だった件に関して、理工・生命・情報の3学部の協力で2020年度に採用人事を行い、生命科学部・生命機能学科において教職担当教員の任用が決定し、教職課程の教育の充実が期待できることとなった点は特筆される。

3 その他の基準のCOVID-19への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献におけるCOVID-19対応・対策を行っているか。

①その他、学部として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等におけるCOVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

生命機能学科では、ラーニングサポーターによる新入生への学習指導をオンライン上でできるように整備した。また、研究室配属学生に対しては、オンラインでの効率的な学

習と研究が可能となるように各研究室でスケジュール管理等の工夫がなされた。

環境応用化学科では、外部講師を招いて開催してきた「環境応用化学セミナー」を2020年度は4回（第14～17回）開催した。三密を避けるためにオンライン開催としたことにより、セミナーに参加しやすくなって、参加人数が大幅に増加した。

応用植物科学科では、対面でのガイダンスを開催できなかった1年生（現2年生）を中心として担任によるメールでの問い合わせへの細やかな対応を心掛け、履修等の疑問や学生生活の不安を軽減できるよう努めた。また社会貢献として、植物医科学センターにおける病害虫診断についても、対応可能な人員等に十分配慮しながら、活動状況を開示し、極力受け入れを継続した。

【根拠資料】

・植物医科学センターホームページ

【この基準の大学評価】

生命機能学科では、新入生に対してはラーニングサポーターによる学習指導をオンラインで実施できるように整備し、研究室配属学生に対してもオンラインでの効率的な学習と研究が可能となるように工夫している。また環境応用学科では外部講師による「環境応用化学セミナー」をオンラインで実施し、応用植物学科では新入生に対して担任によるメールでの問い合わせへの対応などを行い、履修等の疑問や学生生活の不安を軽減できるよう努めている。各学科がそれぞれ初年次教育に関して工夫を凝らしている点は評価できる。

実験・実習科目に関しては、対面でなければ困難な面があるが、各学科で効果的対応がなされている。生命機能学科では、オンライン、オンデマンドで実施する場合は、技術的に重要なステップは予め操作方法を動画に収め、擬似的ではあるが操作方法を習得できるようにするなど工夫が見られる。また、環境応用学科では、対面の実験に関して、研究室のガイドラインを作成、人数を制限、入退室記録の作成、実験機の間にはビニールシートを設置するなどして「密」を避けた。応用植物学科でも、実験においては、動画や画像を多数提供し、極力実際の実験をイメージしながら課題に取り組めるよ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

うに努めている。これらの点は、今後もより効果的に工夫して実施されることを期待したい。

III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	理念・目的	
1	中期目標	生命科学部では、自然科学の知識を基盤として多様な生命科学を学ぶことができることを、在学生および受験生と保護者などに対して周知する。	
	年度目標	昨年度リニューアルされた法政大学公式ホームページに合わせて各学科のホームページのリニューアルや更新を行い、広報活動に関するアンケートにより、学部パンフレットに掲載されている理念・目的などの内容が周知されているか検証する。	
	達成指標	掲載ページの訪問回数、および広報活動に関するアンケートの回答内容。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	学部や各学科のHPを随時更新し、新型コロナ対応に関するお知らせや研究・教育活動に対する受賞や表彰者の紹介を行った。そのため、学部ホームページの閲覧数は、2017年度38,413、2018年度42,127、2019年度37,507、2020年度61,546(2/13時点)と大幅に増加している。しかし、広報活動に関するアンケート調査は新型コロナの影響で実施することはできなかった。
		改善策	広報活動に関するアンケートは毎年度新入生を対象に実施しており、今年度実施できなかった分は来年度の新入生と2年生を対象として実施することで継続的なデータの蓄積を行う。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		今年度はコロナ禍による対面での広報活動ができない中、本学の理念・目的の周知には、HPにより広く情報発信することが特に重要である。このような状況でHPへのアクセス数が上昇しているのは評価できる。	
改善のための提言	次年度に広報活動に関するアンケートを1,2年次の学生実施し、HPリニューアルの効果について検証していただきたい。		
No	評価基準	内部質保証	
2	中期目標	自己点検作業における執行部会議と質保証委員会の役割をより明確に分けた現在の体制を維持し、厳格なPDCAサイクルを行う。	
	年度目標	前年度の年度末状況報告書を反映して改善(A)した年度計画(P)を立て、自己点検評価シートを作成する。年度中は、質保証委員会において、執行部の年度計画の実行(D)状況を確認する。年度末には、質保証委員会の評価(C)を反映させた年度末状況報告書を精査して執行部にフィードバックし次年度に引き継ぐ。これにより、厳格なPDCAサイクルを行う。	
	達成指標	執行部会議および質保証委員会議事録、開催回数、および議論の内容の記録。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	自己点検評価シート、年度末状況報告書を精査して執行部にフィードバックし、厳格なPDCAサイクルを行っている。なお、執行部会議を17回開催、質保証委員会を4回開催し、議論の内容は議事録として記録を残している。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
所見		質保証委員会による年度末状況報告書等の点検・評価が厳格に実施されている。近年、PDCAサイクルが適切に行われていると評価できる。	
改善のための提言	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
3	中期目標	学部開講科目における教養科目と専門科目の連携を強化すると同時に、ディプロマ・ポリシーと各科目の関連性を明確にする。	
	年度目標	昨年度まとめられた基盤教育タスクフォース委員会からの最終報告を受けて、教養科目と専	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		門科目で似た内容の科目の洗い出しや教養科目における生命科学部生向けの動機づけなど、教養・専門の間の連続性をより強化するための方策を継続して検討するため、生命科学部に所属する教養担当教員と専門科目担当教員が意見交換をする場として、教養・専門教育連携委員会を開催する。
	達成指標	教養・専門教育連携委員会の開催記録。履修の手引など。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	生命科学部に所属する教養担当教員と専門科目担当教員が意見交換をする場として、教養・専門教育連携委員会を開催した。学生モニターで得られた問題点や課題について議論し、教養科目における生命科学部生向けの動機づけなど、教養・専門の間の連続性をより強化するための方策が検討された。また、履修の手引きのオンライン化とともにカリキュラムツリーを再掲載し各科目の関連性を明確化することにした。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教養・専門教育連携委員会が開催され、生命科学部における教養・専門の間の連続性をより強化するための方策が検討された点は評価できる。
	改善のための提言	今後も教養担当教員と専門科目担当教員の意見交換の場を継続・強化していくことが望まれる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	100分授業の特性を活かしたアクティブ・ラーニングの実施を促進する。
	年度目標	今年度は、新型コロナウイルスの影響があり、春学期はオンライン授業を主体に講義を行う。これを契機として新たな教育方法の検討やオンデマンド・双方向オンライン授業の拡充を図る。また、シラバスについても随時変更を加えることにより、柔軟に対応していく。
	達成指標	オンデマンドやオンライン授業の実施状況の把握や、これらの授業公開が実施可能か検討した上で、試行する。シラバスの活用。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	春学期は新型コロナの影響で全ての講義をオンライン授業で行ったが、全ての講義の実施状況調査を行い、教材や課題の提供やオンデマンド教材、Zoom等のリアルタイム講義の比率を算出した。授業公開は春学期は専任教員のみ、秋学期は全教員を対象としてオンラインで行った。
	改善策	—
質保証委員会による点検・評価		
所見	今年度のコロナ禍の対応により、オンライン授業が余儀なくされたが、その実施状況の把握および授業効果によるフィードバックが実施されていることは評価される。	
改善のための提言	—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	学習の総合的な結果である研究成果を対外的に発表することを促進する。
	年度目標	生命科学部では、学部生の学会発表が多くなされており、研究成果の対外的発表が活発に行われている。今年度以降も、この状況を持続させることに注力し、学外発表費用の補助も拡充していく。
	達成指標	学部生の学外発表の回数。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学会における学生の発表は、そのほとんどが大学院生によるが、学部生の学外発表数も3学科合わせて23件であり、新型コロナの影響で学会がオンライン開催となる中、対外的発表が継続的に行われており、学外発表費用補助拡充の必要性が確認された。
	改善策	—

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		質保証委員会による点検・評価		
	所見	理系学部においては研究に基づいて教育することが重要であり、コロナ禍の中、学部生の学外発表数が活発に行われていること、その数を継続的にモニターしている点は評価できる。		
	改善のための提言	—		
No	評価基準	学生の受け入れ		
6	中期目標	広報イベントを通じた受入方針の周知について、効率のよい方法を確立する。		
	年度目標	広報イベントに関するアンケートにより、入学者が比較的によく参加したイベントや、進路の最終決定におけるホームページの重要性などが明らかとなってきた。これを踏まえ、重点的に行うべきイベントの絞り込みやホームページの拡充に取り組む。さらに、このアンケートを本年度も継続し、データを蓄積していく。		
	達成指標	アンケートの分析とその検証結果。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	広報イベントに関するアンケートは新型コロナの影響で実施できなかった。様々なイベントが中止やオンラインに変更になった影響を来年度は検証する必要がある。	
		改善策	広報イベントに関するアンケートは無記名で行っていたため、実施が困難であったが、来年度は1, 2年生に対してオンラインで実施する方法を検討する。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	様々なイベントおよびアンケートが実施できなかったことは、コロナの影響であるため致し方ない。	
	改善のための提言	次年度に広報活動に関するアンケートを1, 2年次の学生に実施することを検討していただきたい。		
No	評価基準	教員・教員組織		
7	中期目標	①教養教員の採用および教養科目の担当教員の再編を含め、生命科学部にふさわしい教養教育を行う体制を整える。		
	年度目標	教養教育担当の教員の採用により、英語、数学、物理、化学、科学実験、スポーツ健康科学の科目が生命科学部の専任教員によって担われることになり、バランスのとれた教養教育体制が整った。 今後は、教養科目と学部専門科目との連携を強化するために教養・専教育連携委員会を開催し、生命科学部にふさわしい教養教育を行う体制を整える。		
	達成指標	教養・専門教育連携委員会議事録、開催回数、および議論の内容の記録。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	理工学部と情報科学部の教員も参加する生命科学部推薦委員会で公募と選考を行い、教職担当の任期付教員1名の採用を生命科学部教授会にて決定した。これにより教養・専門担当教員の連携が強化されることが期待される。また、第2回教養・専門教育連携委員会を開催し、教養教育と専門教育の連携についての問題点の共有や今後の課題について話し合った。	
		改善策	—	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	3学部の教職担当を担当する任期付教員1名の採用を理工学部と情報科学部の教員も参加する生命科学部推薦委員会で選考をおこなったことは、公平性の担保および連携の強化が期待され、評価できる。	
	改善のための提言	—		
No	評価基準	教員・教員組織		
8	中期目標	②在外研究を推進する。		
	年度目標	在外研究中の研究室の人的サポートなど、制度のより柔軟な運用が可能になるような方策を		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		関連する委員会で検討することに加え、研究担当理事への要望などについても検討していく。また、在外研修制度を利用した教員の帰国報告会を開催するなどして、制度への理解と改善方法を検討する。
	達成指標	委員会の議事録および帰国報告会の開催記録
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	在外研修制度を利用した教員の帰国報告会を予定していたが、新型コロナの影響で延期された。また、在外・国内研究員枠を利用した新たな助手制度について検討を始めた。
	改善策	延期された帰国報告会をオンラインで開催することを検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	在外・国内研究員枠を利用した新たな助手制度について検討を始めた点は評価できる。
	改善のための提言	延期された帰国報告会をオンラインで開催して、在外研修制度への理解と成果について共有し、在外研修制度の積極的な活用および柔軟な運用を検討していただきたい。
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	留学生に対する修学支援制度を確立する。
	年度目標	留学生との懇談会を開催し、留学生に対して必要な修学支援に関する調査を行い、支援制度の確立を検討する。
	達成指標	留学生との懇談会の開催記録。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	留学生との懇談会は新型コロナの影響で開催できなかったが、Hoppii を用いた修学支援の呼びかけを行った。
	改善策	留学生との懇談会は新型コロナの影響で対面で開催することは困難であるが、オンラインでの開催を検討する。
質保証委員会による点検・評価		
所見	コロナ禍で制限のある中、留学生に Hoppii を用いた修学支援の呼びかけを行った点は評価できる。	
改善のための提言	次年度も留学生に Hoppii を用いた修学支援の呼びかけを行うことを検討していただきたい。また、留学生の状況を把握することも含めて、コミュニケーションをとるためのオンライン懇談会等の開催も検討していただきたい。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献
10	中期目標	学外へ向けて研究・教育活動の紹介を促進する。
	年度目標	外部参加者のいるセミナー、展示会、学祭における研究室紹介を活発に行う。特に、学生における研究室紹介の補助金の継続を要望していく。 また、ホームページによる研究・教育活動の紹介の促進にも着手する。
	達成指標	アンケート調査の結果、紹介活動の例数。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	外部参加者のいるセミナー、展示会、学祭における研究室紹介の回数は3回であった。新型コロナの影響で中止になるものが多かったが、ホームページによる研究や教育活動の紹介、受賞や論文のプレスリリースを積極的に行った。
	改善策	—
質保証委員会による点検・評価		
所見	HP による研究や教育活動の紹介、受賞や論文のプレスリリースを積極的に行った点は評価できる。	
改善のための提言	次年度も HP にて積極的にプレスリリース等をおこない、研究成果を広く研究・教育活動を広報していただきたい。	
【重点目標】 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

新型コロナウイルスの影響により、オンデマンドやオンラインでの授業が余儀なくされているが、この機を利用し新たな教授方法の検討やオンデマンドやオンライン授業の拡充を図っていく。そのための施策として、オンデマンドやオンライン授業の授業公開の実施方法を検討し、試行することによりその利点と問題点を精査する。

【年度目標達成状況総括】

新型コロナの影響で、春学期はすべてオンライン授業になったが、専任教員による授業公開や全講義の実施状況調査により、大きく分けて3種類の講義形態であることがわかった。(1)教科書や課題の提示(48%)、(2)オンデマンド教材の提供(18%)、(3)Zoom等を用いたリアルタイムでの講義(28%)であったことから、秋学期はオンデマンド教材の提供やリアルタイムでの講義を積極的に行うように各教員に依頼した。その結果、学生からの授業に対する不満が減少した。オンライン講義は様々な授業形態が可能であり、我々教員が様々なコンテンツを提供することにより、学生の修学意欲の向上につながるということがわかった。

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

生命科学部の中期目標、年度目標、重点目標は、現状の課題を踏まえたものとなっており、検証もHPへのアクセス調査など具体的で明確であり、適切である。

重点目標として、新型コロナウイルスの影響によるオンデマンドやオンラインでの授業について、この機会を利用し新たな教授方法の検討やオンデマンドやオンライン授業の拡充を図っていくための施策として、オンデマンドやオンライン授業の授業公開の実施方法を検討し、試行することによりその利点と問題点を精査するとしているが、積極的な姿勢を評価したい。また目標達成のために全講義調査を行い、その結果秋学期はオンデマンド教材の提供やリアルタイムでの講義を積極的に行うように各教員に依頼した。こうした取り組みは目的達成のための改善へと繋がり学生への教育効果という面でも積極的に評価したい。2021年度も、教育効果を検証しさらなる改善を期待したい。

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	生命科学部では、自然科学の知識を基盤として多様な生命科学を学ぶことができることを、在学生および受験生と保護者などに対して周知する。
	年度目標	前年度に引き続き、各学科のホームページのリニューアルや更新を行うことで広報活動に務める。また、前年度は実施できなかったアンケートを新入生と2年生を対象に実施し、学部パンフレットに掲載されている理念・目的などの内容が周知されているかを検証する。
	達成指標	掲載ページの訪問回数、および広報活動に関するアンケートの回答内容。
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	自己点検作業における執行部会議と質保証委員会の役割をより明確に分けた現在の体制を維持し、厳格なPDCAサイクルを行う。
	年度目標	前年度の年度末状況報告書を反映して改善(A)した年度計画(P)を立て、自己点検評価シートを作成する。年度中は、質保証委員会において、執行部の年度計画の実行(D)状況を確認する。年度末には、質保証委員会の評価(C)を反映させた年度末状況報告書を精査して執行部にフィードバックし次年度に引き継ぐ。これにより、厳格なPDCAサイクルを行う
	達成指標	執行部会議および質保証委員会議事録、開催回数、および議論の内容の記録。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	学部開講科目における教養科目と専門科目の連携を強化すると同時に、ディプロマ・ポリシーと各科目の関連性を明確にする。
	年度目標	生命科学部に所属する教養担当教員と専門科目担当教員が意見交換をする場として、教養・専門教育連携委員会を開催し、教養科目と専門科目で似た内容の科目の洗い出しや教養科目における生命科学部生向けの動機づけなど、教養・専門の間の連続性をより強化するための方策を継続して検討する。
	達成指標	教養・専門教育連携委員会の開催記録。履修の手引など。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	100分授業の特性を活かしたアクティブ・ラーニングの実施を促進する。
	年度目標	新型コロナウイルス感染症に対応するため、昨年度に引き続きオンライン授業やオンデマ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		ト授業の充実に尽力する。また、ハイフレックス授業や対面での実験実習など、感染症対策に配慮しながら学習成果の向上を目指して新たな教育方法を模索していく。感染症の状況に応じて授業形態を随時変更するなど、柔軟に対応していく。
	達成指標	オンデマンドやオンライン授業の実施状況の把握や、これらの授業公開が実施可能か検討した上で、実施する。シラバスの活用。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	学習の総合的な結果である研究成果を対外的に発表することを促進する。
	年度目標	生命科学部では、学部生の学会発表が多くなされており、研究成果の対外的発表が活発に行われている。今年度以降も、この状況を持続させることに注力し、学外発表費用の補助も拡充していく
	達成指標	学部生の学外発表の回数。
No	評価基準	学生の受け入れ
6	中期目標	広報イベントを通じた受入方針の周知について、効率のよい方法を確立する。
	年度目標	例年、新入生に対して広報イベントに関するアンケートを行い、入学者がよく参加したイベントや、進路の最終決定におけるホームページの重要性などについて調査してきたが、2020年度はアンケートが実施できなかった。2021年度は1, 2年生に対してオンラインでアンケートを実施するとともに、多くの広報イベントが中止になった影響などについても分析する。
	達成指標	アンケートの実施とその分析結果。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	①教養教員の採用および教養科目の担当教員の再編を含め、生命科学部にふさわしい教養教育を行う体制を整える。
	年度目標	教養教育担当の教員の採用により、英語、数学、物理、化学、科学実験、スポーツ健康科学の科目が生命科学部の専任教員によって担われることになり、バランスのとれた教養教育体制が整った。 今後は、教養科目と学部専門科目との連携を強化するために教養・専門教育連携委員会を開催し、生命科学部にふさわしい教養教育を行う体制を整える。
	達成指標	教養・専門教育連携委員会議事録、開催回数、および議論の内容の記録。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	②在外研究を推進する。
	年度目標	在外研究中の研究室の人的サポートなど、制度のより柔軟な運用が可能になるような方策を関連する委員会で検討することに加え、研究担当理事への要望などについても検討していく。また、2020年度に開催できなかった帰国報告会をオンラインで開催し、制度への理解と改善方法を検討する。
	達成指標	委員会の議事録および帰国報告会の開催記録
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	留学生に対する修学支援制度を確立する。
	年度目標	留学生との懇談会を対面で開催することが困難な場合には、オンラインでの開催を検討する。留学生に対して必要な修学支援に関する調査を行い、支援制度の確立を検討する。
	達成指標	留学生との懇談会の開催記録。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
10	中期目標	学外へ向けて研究・教育活動の紹介を促進する。
	年度目標	外部参加者のいるセミナー、展示会、学祭における研究室紹介を活発に行う。特に、学生における研究室紹介の補助金の継続を要望していく。 また、ホームページによる研究・教育活動の紹介の促進にも着手する。
	達成指標	アンケート調査の結果、紹介活動の例数。
【重点目標】 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 新型コロナウイルスの影響により、オンデマンドやオンラインでの授業が余儀なくされているが、この機を利用して新		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

たな教授方法を検討するとともに、感染状況に配慮しながらハイフレックス授業や対面授業の拡充を図る。

【目標を達成するための施策等】

感染状況に応じて、生命科学部としての授業実施方針を迅速に策定する。また、新型コロナウイルスの影響下ではあるが、授業公開を通常通り実施して、授業の方法や工夫について相互に参考にできるようにする。授業実施方法や学習成果について教員にアンケートを実施して、各授業形態の利点と問題点を精査する。

【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

生命科学部の 2021 年度の中期目標、年度目標は、2020 年度と大きな変化はないが、2020 年度達成状況が自己評価 B 評価であったものについて、質保証委員会からの改善提言が適切にされている。生命科学部の教育内容を社会的に周知する目的の広報として、引き続きホームページのリニューアル、学生アンケートの実施が掲げられている。ホームページは良く整理されていて分かりやすいが、学科オリジナルサイトにすぐに移動できず、またやや色彩に欠け躍動感に乏しい印象もある。現代的なトピックに関する動画などの掲載がなされればより興味を引くと思われる。他大学のホームページを参考にするなどすることでよりアピール度のあるホームページの作成を期待したい。

重点目標として新型コロナウイルスの影響に対して、教員の授業公開の実施や教員に対するアンケートによって授業形態の利点も問題点を精査するとしているが 2020 年度のアンケートも授業改善に有益だったと思われる引き続きの取り組みを期待したい。

【大学評価総評】

生命科学部の 2020 年度の中期目標、年度目標に関して、教職担当教員の採用が決定されたことは目標の達成として評価でき、今後の教育成果に期待したい。内部質保証、教育課程・学習成果、教員・教員組織、学生支援、社会貢献・社会連携の評価項目は十分達成されており、適切に運営されている。学生の受入れに関しては、学生アンケートの実施が望まれる。

また在外・国内研究員枠を利用した新たな助手制度について検討を始めた点は、研究者養成として有益な制度として実現が望まれる。

2020 年度自己点検・評価活動に関しては、専任・兼任教員による全教職員に向けての授業公開は FD 推進活動として高く評価できる。

またコロナ禍における全講義調査を実施し、それに基づく授業方法の改善を試みた努力は注目に値する。オンライン授業の需要が増すと思われる今後の講義形態への転換を図る上でも、継続して推進することを期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。